

## 創刊あいさつ

とくしまエシカル消費推進会議 加渡いづみ会長

今私が手にしている商品は、どこの国や地域から運ばれてきたのでしょうか。どのような人たちによって作られているのでしょうか。毎日そして一生繰り返される消費活動の中で、消費者が商品やサービスの「背景」に思いを馳せることは、残念ながらまだまだ少ないと感じています。

最近「エシカル消費」という言葉を見聞きする機会が増えてきたとはいえ、自分の言葉で説明するとなると考え込んでしまうことも少なくありません。「エシカル消費」とは、直訳すれば「倫理的な消費」、つまり環境や人権、地域社会、そして未来に配慮した消費行動を意味するものです。ただ、含まれる概念がとても幅広く、類似した言葉も多いために、私たち一人ひとりの生活シーンと結びつけてイメージすることに時間がかかっているのかもしれない。

例えば、エコマークやフェアトレードマークが付いた商品を選ぶ、食品ロスを削減する取り組みに参加する、商品の購入を通じて被災地を応援する、地産地消を意識した買い物をする、これらは全てエシカル消費です。このように例を挙げると、既に取り組んできたことがたくさん含まれており、まるで「何でもアリ」のように見えますが、これらの行動には共通点があります。それは、自分のニーズや利便性を満たすことに加えて、「自分以外の誰かのために、あるいはどこかの地域や国のために、また将来世代のために役に立つ」お金とモノの使い方を考えることです。

つまり、私たち消費者の買い物をはじめとする様々な行動は、自分一人で完結するものではありません。また、原材料の調達、商品の製造や流通のプロセスはいくつもの国にまたがり、国内のみで完結することも難しいでしょう。そう考えれば、今や一人ひとりの「買い物」の蓄積は、地域や国を超え、さらには時間を超えて将来の社会のあり方にまで影響を与えと言えます。だからこそ、ほんの少し「誰かのため、どこかのため、未来のため」を意識したお金の使い方をすることで、これからの世界が変わっていくのです。そのためには、商品の「背景」に関心を持ち、正しい情報を得ることが必要になります。徳島県でも、消費者団体、事業者、教育機関、社会福祉団体、報道機関など幅広い分野から組織が参加し、平成29年7月7日に「とくしまエシカル消費推進会議」が発足しました。かつて、近江商人が信条とした「売り手よし、買い手よし、世間よし」の『三方よし』に、「作り手よし、未来よし」を加えた『五方よし』を地域で実現すること、これが「エシカル消費」の理念です。

このように活字にすると、「エシカル消費」は堅苦しく難しいものを感じられるかもしれませんが、決してそうではありません。むしろ、とてもオシャレでシンプルで、楽しい暮らし方のヒントなのです。「エシカル消費」は、個人のライフスタイルであるとともに、持続可能な地域づくりと地方創生の大きな原動力となります。地域資源を活かした徳島スタイルの「エシカル消費」のムーブメントを、笑顔で巻き起こしていきましょう。



加渡いづみ

四国大学短期大学部 教授・県消費生活審議会 会長・消費生活アドバイザー・CFPファイナンシャルプランナー

## とくしまエシカル消費推進会議 発足！

平成29年7月7日、とくしま消費者行政プラットフォームにて、第1回「とくしまエシカル消費推進会議」が開催されました。

環境、人や社会、地域などに配慮した消費行動である「エシカル消費」。その普及推進を図って、消費者や事業者・行政等が連携し、誰もが毎日の消費を通じて環境や人権等の社会的課題の解決に寄与することができる「エシカルな社会」の実現を目的としています。

また、平成30年1月の第2回会議では、各団体における取組の情報交換を行い、エシカル消費の普及浸透に向けた協議を行いました。

今後も「とくしまエシカル消費推進会議」はエシカルのプラットフォームとして、これから「普及浸透に向けた企画運営」「教育の推進」「事業者の取組を推進」「徳島県での取組を全国発信」等の活動に取り組んでいきます。



【2017年7月7日 推進会議の様子】

## 夏休み 親子で学ぼう！イオンdeエシカル消費

平成29年8月25日（金）イオンモール徳島で、小学生とその保護者を対象としたイベント「夏休み 親子で学ぼう！イオンdeエシカル消費」を開催したところ、夏の熱気に負けず、12組40名の皆様にご参加いただきました。

このイベントは、売り場に設けられたチェックポイントを親子で巡り、クイズに答えながらエシカル消費関連の認証ラベル（フェアトレード、海のエコラベル、オーガニックなど）の意味を学ぶ体験型イベントです。

参加者は、事務局から「エシカル消費」に関する説明を受けた後、チェックポイントに向かい、売り場で実際に並んでいる商品を目にしながら、鳴門教育大学の学生やスタッフから認証マークの意味について説明を受け、エシカル消費に関する理解を深めました。

参加した子ども達からはチェックポイントを見つけて歓声を上げる姿や、エシカル消費についての話に真剣に耳を傾ける姿が見られました。



## 「Go!Go!エシカル」わくわく徳島プロジェクト

徳島県教育委員会では、「エシカル消費」の普及・啓発を図るとともに、持続可能な社会の実現に向けて主体的に行動することができる消費者力の育成を目指して、本年度次の2つの取組を行っています。

### ① 「エシカル消費」リーディングスクール事業

この事業の目的は、多様な主体と連携して、県内の「エシカル消費」の取組を牽引するとともに、全国モデルとなる「エシカル消費」の推進を目指すことです。今年度の実施校は、城西高等学校と吉野川高等学校の2校です。取組例としては、本藍染め商品の開発、伝統的野菜を使った調理法の研究、有機栽培作物を使った安全安心な商品の開発などがあげられます。それぞれの学校の研究テーマは次のとおりです。

#### ○城西高等学校 研究テーマ

城西発「エシカル消費」の発信と啓発～私たち高校生だから出来ること、伝えたいこと～



【城西高校 エシカル消費自主宣言】

#### ○吉野川高等学校 研究テーマ

私が変わる世界が変わる「吉高エシカルプロジェクト」～持続可能な農業を核とした安全安心な商品開発とエシカル消費の推進～



【吉野川高校 スクールカフェ】

### ② 高校における「エシカルクラブ」推進事業

この事業の目的は、学校の強みを活かした取組を行い、身近なところから「エシカル消費」を広めることです。今年度の実施校は次の12校です。今後3年間で全ての公立高校で取り組みます。

城南高等学校、城北高等学校、徳島商業高等学校、小松島西高等学校、富岡東高等学校、阿南工業高等学校、那賀高等学校、板野高等学校、川島高等学校、つるぎ高等学校、池田高等学校、池田高等学校三好校

取組例としては、文化祭での啓発活動、地産地消の研究、被災地支援バザー、環境保全活動などがあげられます。



【エシカルクラブの取組に関するパネル展】

## 消費者庁の取組 ～消費者行政新未来創造オフィス～

倫理的消費（エシカル消費）とは、地域の活性化や雇用なども含む、人や社会、環境に配慮した消費行動を指します。例えば、フェアトレード商品、被災地産品やリサイクル製品の購入などがあります。

消費者庁では、平成27年5月から約2年、「倫理的消費」調査研究会を開催しました。同研究会において、様々な分野の専門家により幅広い観点で行われた議論を整理し、平成29年4月に取りまとめを公表しました。

取りまとめでは、倫理的消費の概念の全国普及に当たり、以下の推進方策を掲げています。

- ① 国民全体による幅広い議論の喚起
- ② 学校での教育などを通じた消費者の意識の向上
- ③ 事業者による消費者とのコミュニケーションの促進、推進体制の整備
- ④ 様々な主体、分野の協働によるムーブメント（推進活動）づくり

また、上記推進方策に加えて、消費者庁ウェブサイトにおいて、「倫理的消費(エシカル消費)」普及・啓発活動」のページを設けるなどにより広く国民への情報提供を行っています。

さらに、倫理的消費に関する普及・啓発のためのリーフレットを作成する予定です。その他、地方公共団体や関係機関・民間団体等と連携を図り、倫理的消費の普及・啓発活動に取り組んでいます。

こうした中、実証に基づいた政策の分析・研究機能をベースとした消費者行政の発展・創造の拠点として平成29年7月24日に、「消費者行政新未来創造オフィス」を徳島県庁舎の10階に開設しました。

消費者行政新未来創造オフィスにおいては、「倫理的消費の普及」は、全国展開を見据えたモデルプロジェクトの一つに位置付けられております。以下の取組等を踏まえ、効果的な倫理的消費の普及・啓発方法等を検討し、全国展開を図ります。

### ○ 先進的取組の収集・発信

消費者・事業者・行政等の倫理的消費の取組事例をヒアリング等により収集・発信するとともに、課題や行政に期待される役割等の把握。

### ○ 徳島県が立ち上げた地域版プラットフォーム「とくしまエシカル消費推進会議」との連携

### ○ 意識調査の実施

徳島県内の普及状況を把握するため、倫理的消費に関する意識調査を実施。

### ○ 地方でのエシカル・ラボの開催

「エシカル・ラボ」は、倫理的消費の概念の普及や情報発信を行うことを目的として開催するシンポジウムです。平成29年10月21日（土）に、鳥取県米子市の米子コンベンションセンターにおいて、「エシカル・ラボ in とっとり」を開催しました。会場が一杯になるほど多くの方々に御来場いただき大盛況のうちに終わることができました。

今年度はさらに、平成30年3月18日（日）に、徳島市内J Rホテルクレメントにおいて、「エシカル・ラボ in 徳島」を徳島県との共催にて開催しました。徳島県内外より10代～70代までの数多くの方々が参加され、大変盛況で楽しく学べる場となりました。詳細は以下の記述をご参照ください。

消費者庁ウェブサイト「倫理的消費(エシカル消費)」普及・啓発活動：

[http://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer\\_education/public\\_awareness/ethical/](http://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_education/public_awareness/ethical/)

「倫理的消費」調査研究会：

[http://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer\\_education/consumer\\_education/ethical/study\\_group/](http://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_education/consumer_education/ethical/study_group/)

消費者庁消費者行政新未来創造オフィス「倫理的消費(エシカル消費)」普及・啓発活動：

[http://www.caa.go.jp/future/project/project\\_004/](http://www.caa.go.jp/future/project/project_004/)



【エシカル・ラボ in とっとり】

## 「エシカル・ラボin徳島」を開催しました

エシカル消費の意味や必要性などについて、広く考え方を普及するための情報提供を行うとともに、徳島県における主体的な普及・啓発活動を情報発信することを目的に「エシカル・ラボin徳島」を開催しました。

「エシカル消費の基礎知識」「エシカルNEWS」でエシカル消費を学んだ後、地域課題解決型カードゲーム「あわdeどん」を使って「食品ロス」をテーマにグループワークを行いました。その後、徳島県内の4団体からエシカル消費の取組紹介を行い、最後にエシカル消費リーディングスクールの城西高校と吉野川高校が藍染めTシャツの交換を行いました。



【エシカルNEWS】



【カードゲームを使ったグループワーク】



【高校生による藍染めTシャツ交換】

## 食品ロスとは

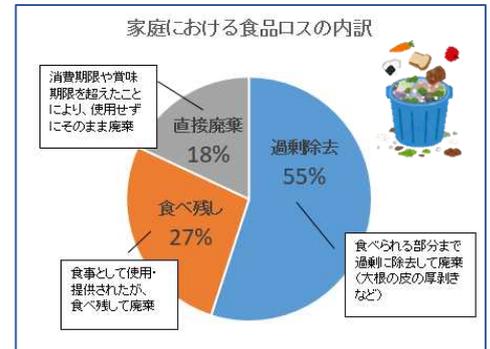
【食品ロス】とは、まだ食べられるにもかかわらず捨てられる食品を指します。食品ロスは深刻な社会問題となっており、その削減に向けての取り組みが広がっています。「売れ残り」や「期限を超えた食品」、「食べ残し」などが、日本では年間約632万トン（農水省及び環境省H25推計）と試算されており、これは世界全体の食料援助量（年間320万トン）の約2倍になります。

また、632万トンの食品ロスの約半分、302万トンが一般家庭からによるものです。

食材別に見ると、最も多いのが野菜、次いで調理加工品、果実類、魚介類で、食べずに捨てた理由としては、

- 調理の際に、食べられる部分まで過剰に除去する「過剰除去」
- 食事として使用・提供されたが「食べ残し」
- 消費期限・賞味期限切れ、鮮度の低下、腐敗・カビの発生などにより、食材として使用しないままの「直接廃棄」

などが挙げられています。



## 食品ロス削減の工夫

日本では、1人当たりの食品ロス量を試算すると、「お茶碗役1杯分（約136g）の食べ物」が毎日捨てられている計算となります。**大切なのは、1人1人が「もったいない」を意識して行動すること**です。

### ① 買いすぎず、使い切る、食べきる

食材を買いすぎたり、在庫があるのを忘れて同じ食材を買ってしまうことで、食材を使い切れずに腐らせてしまう原因になります。買い物の前には在庫を確認し、必要なものだけ買うようにしましょう。また、買ったものは使い切る・食べきるようにしましょう。

### ② 残った食材は別の料理に活用

食べ残しを減らすために、料理は食べられる量だけ作るようにしましょう。中途半端に残ったら別の料理に活用するなど、食べきる工夫をしてみましょう。



### ③ 「消費期限」と「賞味期限」の違いを理解

「消費期限」は品質の劣化が早い食品に表示されている「食べても安全な期限」のため、それを超えたものは食べない方が安全です。「賞味期限」は「おいしく食べられる期限」で、それを超えてもすぐに食べられなくなるわけではありません。見た目や臭いなどで個別に判断しましょう。

### ④ 外出時の食べ残しを防ぐために

外出では、ボリュームが予想外に多い、知らずに嫌いな食べ物が含まれていたなどの理由で食べきれない場合があります。「小盛メニューの利用」「注文時のボリューム確認」「嫌いな食べ物があれば、あらかじめ抜いてもらう」などの工夫をしてみましょう。

## エシカル消費自主宣言【石井町】

徳島県では、県内でエシカル消費に取り組む事業者等からのエシカル消費自主宣言を募集しています。



### 【石井町エシカル宣言】

私たち石井町は『太陽と緑の環境都市 いしい』をスローガンに、「支え合い育て合う、人の輝くまちづくり」「環境を考え暮らしを快適にするまちづくり」「住民が主役の活力あふれる町づくり」に取り組んでいます。

私たち行政が行えるエシカル消費への行動は、人権や環境に配慮したまちづくりに取り組みながら、地産地消、消費者教育などを積極的に推進し、消費者・事業者・行政がそれぞれの役割を果たしつつ、課題に取り組んでいくことで、持続可能な社会の実現、地域の活性化に繋がっていくものであると考えます。

今後も、やれること、出来ることを積極的に取り入れ、エシカル消費を推進していくことを宣言します。

石井町では、庁舎内に就労支援事業所「れもんワークス」による「リモーネ食堂」の開設による障がい者の就労支援や、町で農業を営む6人が地域でとれた食材や、商品にならず捨てられる食材をつかって料理をすることで、環境問題や地元産野菜のおいしさに注目してもらおう「エシカル食堂」の開催の支援を行っています。



【おいしく食べて食材の有効活用を学ぶ「エシカル食堂」】